

3-5 学系別情報技術活用研究集会

学系別教育IT研究委員会の要請に応じ、関係教員による意見交換や優れた活用方法の模索研究を目的とした研究集会を開催した。本年度は、17年3月に英語学のIT活用研究委員会主催による研究集会が開催された。以下に、開催結果を報告する。

(1) 英語教育情報技術活用研究集会

本研究集会は、大学における英語教育のコア・カリキュラムの方向性を確認し、教育目標である4技能を活用できる能力について、到達に向けた授業改善方法を模索することを目的として開催された。とりわけ、学生一人一人の能力を向上させる手段として、学習進捗状況に応じた指導が可能なLearning Management Systemの活用について研究するとともに、今後あるべきコア・カリキュラムについて検討することにした。

プログラムは、初めに慶應義塾大学環境情報学部の鈴木 佑治氏より、ITを活用した学生参加型授業のプロジェクト授業について講演を受けた。このプロジェクトは、慶應塾大学のみならず、海外の大学、近隣地域の小中高校も交えて実施されているものであり、オンライン上で学生が主体的に情報発信できる能力の滋養を目的としている。本プロジェクトにおける教員の役割として、鈴木氏は、一方的な知識伝達ではなく、学生が自ら問題発見・解決できる能力を育成するためのアドバイザーに徹するべきであることを強調された。

委員会報告では、①Learning Management Systemと英語教育 ②大学英語教育とコア・カリキュラムの2部構成により実施した。①ではCMS、Learning Management Systemを活用した授業事例が報告されたが、特に授業の方針や形態、自身のITスキルに鑑みて必要な機能を吟味すべきことが提言された。②においては、早稲田大学法学部における統一基本シラバスによる授業実践とその効果、大学の英語教育における共通のコア・カリキュラムへ向けての共通評価標準の提案がなされた。

全体討議では、学生の多様化に対応するためにも、e-Learningによる個別指導の重要性が確認された一方で、語学教育はあくまでも対面によるコミュニケーションが大前提であり、e-Learningは対面指導のサポートに徹するべきであるとの共通理解を得た。また、教育内容、評価基準の共通フレーム構築に関し

ては、諸外国においては国家的プロジェクトに基づき施策されている実情に鑑みて、日本においても文部科学省の戦略的な政策立案を望む声があった。以下に開催要項を掲載する。

平成16年度英語教育情報技術活用研究集会

テーマ：大学英語教育の改革に向けたITの活用とカリキュラム編成

開催日時：平成17年3月30日（水）

会場：早稲田大学国際会議場第3会議室

参加者数：105名（道都大学、北星学園大学、北海学園大学、酪農学園大学、東北薬科大学、十文字学園女子大学、文京学院大学、江戸川大学、淑徳大学、千葉科学大学、東洋学園大学、和洋女子大学、青山学院大学、嘉悦大学、駒澤大学、昭和薬科大学、大東文化大学、帝京大学、東海大学、東京経済大学、東京女子大学、日本大学、明星大学、早稲田大学、神奈川大学、中京学院大学、静岡英和学院大学、東海学園大学、豊田工業大学、四日市大学、京都産業大学、京都文教大学、同志社大学、同志社女子大学、立命館大学、龍谷大学、大阪工業大学、大阪女学院大学、大阪体育大学、大阪電気通信大学、大谷女子大学、追手門学院大学、四天王寺国際仏教大学、摂南大学、桃山学院大学、神戸女学院大学、武庫川女子大学、帝塚山大学、岡山理科大学、比治山大学、広島経済大学、広島修道大学、西南学院大学、鹿児島国際大学、沖縄国際大学、東海大学短期大学部、東京家政大学短期大学部、東京成徳短期大学、愛知学泉短期大学、名古屋女子大学短期大学部、関西外国語大学短期大学部、四天王寺国際仏教大学短期大学部、奈良文化女子短期大学、福岡女学院大学短期大学部、明海大学、千葉大学、高崎経済大学）

プログラム

- 13:00～ 開会
- 13:10～ 特別講演「次世代メディアとプロジェクト発信型英語教育」
鈴木 佑治 氏（慶應義塾大学環境情報学部教授）
- 14:00～ 休憩
- 14:15～ 委員会報告「Learning Management Systemと英語教育」
〈実践報告1〉淡路 佳昌 氏（中部大学国際関係学部助教授）
〈課題と提案1〉鈴木 広子 氏（東海大学教育開発研究所教授）
- 15:35～ 委員会報告2「大学英語教育とコア・カリキュラム」
〈実践報告2〉原田 康也 氏（早稲田大学法学学術院教授）
〈課題と提案2〉山本 涼一 氏（帝京科学大学教授）
- 16:40～ 全体討議
- 17:30 終了